

	一般名	報告の概要
197	ロラタジン	ロラタジンと塩酸アミオダロンの併用によって、アミオダロンによるTorsade de pointes 発現の可能性が高まることが示唆された。
198	エタネルセプト(遺伝子組換え)	抗TNF治療を受けた患者のレトロスペクティブ症例分析において、67例のEtanercept投与患者のうち3例が敗血症が主な原因で死亡した。
199	ホリナートカルシウム レボホリナートカルシウム	局所進行性頭頸部扁平上皮癌に対するパクリタキセル、シスプラチン、ホリナートカルシウム、フルオロウラシル併用療法に関する臨床試験において、本剤との関連性を否定できない死亡例(敗血症1例、不明1例)が報告された。
200	塩酸ダウノルビシン	急性骨髄性白血病の患者のダウノルビシンを含む療法において、t(8;21)群とinv(16)群との予後の比較を行った。全生存期間はt(8;21)の方が短く、ある細胞遺伝的異常があるt(8;21)群では非白人の方が全生存期間が短かった。Inv(16)群ではある細胞遺伝的異常がある群と男性群が予後が良かった。低形成性骨髄、死亡、肝腫大、脾腫、皮膚浸潤、歯肉肥大、血小板減少が見られた。
201	塩酸ピラルビシン	初期中枢神経性リンフォーマと診断された患者に本剤を含むProMACE-MOPPを施行した結果、死亡、肺炎、敗血症、白血球減少症、血小板減少症、低ナトリウム血症、ヘモグロビン異常、トランスアミナーゼ異常、血栓症、幻覚が見られた。
202	リン酸フルダラビン	本剤およびメルファランを前処置に用いた非血縁者間の骨髄非破壊的造血幹細胞移植23例中6例で死亡(重症TMA2例、真菌性肺炎、肝不全、下血、不明各1例)を認めた。
203	リン酸オセルタミビル	ベトナム人の少女からオセルタミビルに耐性を示すH5N1型ウイルス(A/Hanoi/30408/2005)が分離された。
204	ノルエチステロン・エチニル エストラジオール	経口避妊薬使用者では潰瘍性大腸炎、クローン病の炎症性腸疾患の危険性が、特に長期使用で増加する可能性が示唆された。
205	インドシアニングリーン	インドシアニングリーン併用内境界膜剥離術後に視野欠損を生じた例では、術後長期にわたって視野障害が進行する可能性が示唆された。
206	塩酸ピオグリタゾン	2型糖尿病患者においてチアゾリジンジオン系糖尿病用薬服用群で前立腺癌のリスクが高くなった。
207	テガフル・ギメラシル・オ テラシルカリウム	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム+塩酸イリノテカン(CPT-11)併用例において、グレード4の食欲不振が1例認められた。
208	ホリナートカルシウム	tegafur/leucovorin併用療法と5-fluorouracil/leucovorin併用療法により、毒性による死亡が4例(下痢、好中球減少後の肺炎(5-FU/LV)、急性腹部合併症、原因不明)報告された。
209	ブスルファン	前処置レジメンにブスルファンを使用した造血幹細胞移植後、肝中心静脈閉塞症が発現し、死亡例が認められた。
210	ヒトインスリン(遺伝子組換え)	インスリン治療を受けている糖尿病患者に大腸癌、直腸癌の発生リスク上昇が認められた。
211	塩酸ミキサントロン	再発リスクが高い乳癌患者に対するミキサントロンを使用した臨床試験において、移植関連死亡(感染症)と骨髄異形成症候群の発症例が認められた。
212	塩酸ミキサントロン	多発性硬化症患者に対するミキサントロンを使用した臨床試験において、白血病の発症例が報告された。
213	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	化学療法にトラスツズマブを併用する乳癌アジュバント療法の有効性及び安全性を評価する2つの第3相臨床試験(NSABP B-31試験及びNCCTG N9831試験)で、対照群と比較してトラスツズマブ併用群で心毒性増加および間質性肺炎や肺浸潤の発現が認められた。
214	プレドニゾン	プレドニゾン服用を含む免疫抑制療法を10年間以上受けたGSTM3 AB及びBB型、GSTP1 Val/Val型を持つ腎移植患者層において扁平上皮癌の発生要因となる可能性が示唆された。

	一般名	報告の概要
215	センノシド	本剤を含む便秘薬を服用中の患者を対象とした聞き取り調査を行った結果、長期連用により効果が低減しているとの回答が多数得られた。
216	ミカファンギンナトリウム	本剤投与ラット肝で認められた変異細胞巣(Foci)の腫瘍への発展性について明らかにするための試験を実施した結果、32 mg/kgの6ヶ月投与により誘発されたFociが腫瘍に進展することが認められた。
217	シクロスポリン	腎移植患者において、ベルベリンはCYP3A4の阻害によりシクロスポリンの濃度を上昇させることが、臨床試験及び薬物動態試験で確認された。
218	エタネルセプト(遺伝子組換え)	抗TNF治療を受けた患者のプロスペクティブスタディ(SPECTRA)において、46例のEtanercept投与患者のうち2例で死亡(不整脈、不明)が報告された。
219	硫酸マグネシウム	硫酸マグネシウムによる子宮収縮抑制を行った妊婦において、低濃度の硫酸マグネシウム投与、硫酸マグネシウムの早い投与速度が肺水腫発生のリスクファクターとなる可能性が示唆された。
220	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	ニワトリ胚を用いた動物実験により本剤と塩酸ドキシソルピシンの相互作用による心不全誘発と増悪を認められた。
221	テガフル・ウラシル	進行再発大腸癌に対するPMC(内服UFT+持続5-FU)を行い、治療効果を上げるため、leucovorin、irinotecanなどの併用症例やPMC以外へのレジメン変更を行った症例において、入院治療を要する悪心・嘔吐3例、下痢2例、腹痛1例、骨髄抑制1例認められた。
222	リバビリン	リバビリン投与時の女性患者および男性患者の女性パートナーの妊娠の転帰として、健常児出産の他、人工中絶、胎児死亡、先天異常、小児疾患などが認められた。
223	塩酸プソイドエフェドリン	プソイドエフェドリンによる脳内出血が1例報告された。
224	イブプロフェン	NSAIDs長期使用は、心血管系疾患による死亡リスク増加と関連した。
225	メロニダゾール	腔用メロニダゾールとミノナゾールを併用治療における先天的異常ケースコントロール調査の結果、併用群において、多合指症発現との関連性が認められた。
226	ホリナートカルシウム	oxaliplatin/ folinic acid/5-fluorouracil併用療法を行い、呼吸器疾患による死亡が1例認められた。
227	エストラジオール	ホルモン補充療法使用者で乳癌での死亡率が非使用者と比較して増加した。
228	塩酸メチルフェニデート	思春期ラットにメチルフェニデートを慢性的に投与することにより、下垂体黄体形成ホルモンの遊離を遅延させ、雌生殖軸の成熟及び卵胞濾胞形成に有害な影響を及ぼす。
229	シクロスポリン	腎移植患者において、ベルベリンはCYP3A4の阻害によりシクロスポリンの濃度を上昇させることが、臨床試験及び薬物動態試験で確認された。
230	塩酸バンコマイシン	イランの小児病院の1996年から2000年までの血液サンプルから、バンコマイシン耐性の黄色ブドウ球菌・コアグララーゼ陰性ブドウ球菌・肺炎球菌が検出された。
231	イブプロフェン	NSAIDs長期使用は、心血管系疾患による死亡リスク増加と関連した。
232	メトレキサート	高用量メトレキサートによる腎機能障害に対するCarboxypeptidase-G2 (CPDG2)およびロイコボリン救援療法にthymidine (Thd)を加えた療法とthymidine (Thd)を加えない療法を比較した試験において、5名の患者が不可逆性のメトレキサートによる毒性が原因で死亡した。

	一般名	報告の概要
233	メトトレキサート	進行尿路上皮癌における高用量M-VAC療法とG-CSF対M-VAC標準療法を比較したEORTC (European Organisation for Research and Treatment of Cancer)の7年間の第III相試験において、それぞれの群で各1の治療関連死が認められた。
234	塩酸ミキサントロン	高齢者の非ホジキンリンパ腫に対するMEMID療法(ミキサントロン,VP-16、メチルグリオキサール、イホスファミド、デキサメタゾン)とCEOP療法(シクロホスファミド、エピルピシン、ビンクリスチン、プレドニゾン)との比較に老いて、を使用した臨床試験において、死亡例(毒性、感染症)が報告された。
235	ポリコナゾール	ポリコナゾールのTDMと有害事象との関連についてレトロスペクティブ解析を行ったところ、神経系の重篤な有害事象が発現した群では、12.5日間(中央値)ポリコナゾールの血中濃度(トラフ値)が5.5mg/L以上続いており、発現しなかった群(5日)より長期間であることから、TDMの有用性について示唆された。
236	塩酸ペロスピロン水和物	公表、非公表を含めた15のプラセボコントロール臨床試験を取り上げ、メタアナリシスを行った結果、プラセボ群と比較してアルツハイマー病あるいは認知症患者群において死亡リスクのオッズ比が1.3~1.9となった。
237	レボチロキシシンナトリウム	レボチロキシシンとシンバスタチンを併用することで、TSH増加を起こす可能性が示唆された。
238	デカン酸ハロペリドール	QT延長作用を有することが知られる非心血管系薬剤であるハロペリドールが、突然死のリスクを高めた。
239	塩酸ラロキシフェン	ラロキシフェンとエストロゲンの併用療法において、子宮内膜が刺激される可能性が示唆された。
240	塩酸パロキセチン水和物	妊娠初期にパロキセチンを服用した妊婦が出産した新生児において、心臓系の異常が発現するリスクが増加する可能性が示唆された。
241	フィルグラスチム(遺伝子組換え)	同種骨髄移植後のG-CSF投与は移植片対宿主病(GVHD)の発症頻度を高めた。
242	フィルグラスチム(遺伝子組換え)	同種幹細胞移植後のG-CSF予防的投与による有用性は低かった。
243	フィルグラスチム(遺伝子組換え)	同種造血幹細胞移植後のG-CSF投与について、投与とGVHD発症との関連性が認められた。
244	インドメタシン	低出生体重児において、出生後2週間で動脈管開存症に対するインドメタシン療法と治療抵抗性の高血圧に対する低用量デキサメタゾン療法を3回以上施行することにより、超低出生体重児における突発性腸管穿孔のリスクが有意に上昇することが示唆された。
245	ネビラピン	乳児への、母乳を介した抗レトロウイルス剤の暴露が考えられる。出生時にネビラピンの経口投与を受けた乳児において、発疹・好中球減少症・貧血が認められた。
246	レボチロキシシンナトリウム	イマチニブとレボチロキシシンの併用で、T3、T4が正常値にもかかわらず甲状腺刺激ホルモンレベルが上昇した。
247	チアマゾール	バセドウ病患者妊婦におけるプロピルチオウラシル服用と奇形発生頻度について検討した結果、抗甲状腺薬のなかで本剤服用例で奇形発生が高率であった。
248	チアマゾール	HTLV-1抗体陽性バセドウ病患者においてチアマゾールはブドウ膜炎の増悪因子と考えられ、チアマゾール治療中の患者にブドウ膜炎が発症した場合、プロピルチオウラシルやアイソトープ治療に変更したほうがよいことが示唆された。
249	プロピルチオウラシル	バセドウ病患者妊婦におけるプロピルチオウラシル服用と奇形発生頻度について検討した結果、抗甲状腺薬のなかで本剤服用例で奇形発生が高率であった。
250	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌にたいする5-FU/folinic acid(FA)/irinotecanの投与により、2例(肺炎、敗血症)の死亡が報告された。

	一般名	報告の概要
251	酒石酸エルゴタミン・無水カフェイン(1)	フルボキサミンとカフェインの併用により、カフェインのクリアランスの低下、半減期の延長が起った。
252	プロピルチオウラシル	バセドウ病患者妊婦におけるプロピルチオウラシル服用と奇形発生頻度について検討した結果、抗甲状腺薬のなかで本剤服用例で奇形発生が高率であった。
253	ブデソニド	緑内障患者、高眼圧症患者において、点鼻ステロイド剤の眼圧上昇作用が示唆された。
254	ベルテポルフィン	加齢黄斑変性症のビスタインによる治療は、当該疾患の浸出性病変を有する患者群における治療2年後の視力損失のリスク減少に寄与しなかった。
255	タゾバクタムナトリウム・ピペラシリンナトリウム	病体の複雑な皮膚及び皮膚構造の感染症に対するmoxifloxacinと対照群(piperacillin-tazobactam + amoxicillin-calvulanate)の有効性等の比較試験において、重篤な有害事象が認められ、死亡した6症例(各群3例)。
256	マレイン酸フルボキサミン	抗うつ剤を処方されている患者の自殺、自傷の発生率を確認した結果、原疾患の抑うつ気分、自殺念慮が抗うつ剤と自殺、自傷との関連性の観察研究では重要な交絡因子であることが示唆された。
257	マレイン酸フルボキサミン	抗うつ剤を処方されている患者の自殺、自傷の発生率を確認した結果、原疾患の抑うつ気分、自殺念慮が抗うつ剤と自殺、自傷との関連性の観察研究では重要な交絡因子であることが示唆された。
258	エタネルセプト(遺伝子組換え)	早期関節リウマチ患者に対するエタネルセプト長期投与の有効性及び安全性を評価した試験において、エタネルセプトを投与された558人中6例の死亡例が報告された。
259	メトレキサート	メトレキサートを使用した治療成績の報告において、本剤との関連性が完全には否定できない致命的な合併症が報告された。
260	プラバスタチンナトリウム	プラバスタチンまたはアトルバスタチン服用患者がOATP-C*15を一つ以上保有する場合、プラバスタチンまたはアトルバスタチンによるミオパシーの発現リスクが上昇することが示唆された。
261	ホリナートカルシウム	進行性結腸直腸癌患者におけるテガフル/ホリナートカルシウムと5-フルオロウラシル/ホリナートカルシウムの比較に関するランダム化試験で、好中球減少症に続発した肺炎による死亡が1例認められた。
262	テガフル・ウラシル	進行非小細胞肺癌に対し、テガフル/ウラシル+ゲムシタピン+ビンレルビンによる3剤併用化学療法の前臨床第II相試験を行い、有害事象の発現率(grade3/4)は、白血球減少42%、好中球減少55%、血小板減少3%、感染症3%、肝障害3%、低酸素血症6%、食欲不振3%であった。
263	リツキシマブ(遺伝子組換え)	リツキシマブ投与により脊髄リンパ腫を発症する可能性が示唆された。
264	レボホリナートカルシウム	結腸直腸癌の補助全身化学療法としての5-FUのモジュレーションの多施設無作為第III相試験において全体で13名(1%)の治療関連死が認められた。
265	ホリナートカルシウム	FOLFOX4に関する臨床試験38例において、ホリナートとの関連性を否定できない死亡例が1例(呼吸不全)認められた。
266	カペシタビン	海外臨床試験(XEL217)における3例の治療関連死のためXEL217においてカペシタビンの投与量が減量された。
267	カペシタビン	カペシタビンにより白質脳症を発症した外国症例が認められた。

	一般名	報告の概要
268	エストリオール	卵胞ホルモン使用により、のう胞の発現が増加することが示唆された。
269	塩酸バンコマイシン	Candisa glabrata, Candida krusei血症の患者において危険因子を解析したところ、ピペラシリンータゾバクタム及びバンコマイシンの使用が危険因子であることが示唆された。
270	塩酸バンコマイシン	Candisa glabrata, Candida krusei血症の患者において危険因子を解析したところ、ピペラシリンータゾバクタム及びバンコマイシンの使用が危険因子であることが示唆された。
271	ジクロフェナクナトリウム	股関節、膝関節の変形性関節症患者において、180日を越えるジクロフェナク使用者は30日以上の短期使用者と比較して、X線所見での症状が進行しており、ジクロフェナクが症状進行を加速する可能性が示唆された。
272	フェノバルビタールナトリウム	治療量のフェノバルビタールを新生ラットに投与した結果、腫瘍発現及び死亡の増加が認められ、原因のひとつとして肝シトクロムP450アイソフォームの永続的過剰発現誘導が関与することが示唆された。
273	ジクロフェナクナトリウム	股関節、膝関節の変形性関節症患者において、180日を越えるジクロフェナク使用者は30日以上の短期使用者と比較して、X線所見での症状が進行しており、ジクロフェナクが症状進行を加速する可能性が示唆された。
274	シクロスポリン	ラットにより、レボチロキシシンが十二指腸におけるP糖蛋白の発現を誘導することにより血中シクロスポリン濃度のトラフ値が下がる傾向にあることが示唆された。
275	ヒトインスリン(遺伝子組換え)	速効型インスリンの累積投与量が1型糖尿病患者のアテローム性動脈硬化のリスク因子となることが認められた。
276	マレイン酸セチプチリン	抗うつ剤を処方されている患者の自殺、自傷の発生率を確認した結果、原疾患の抑うつ気分、自殺念慮が抗うつ剤と自殺、自傷との関連性の観察研究では重要な交絡因子であることが示唆された。
277	リスペリドン	第2世代抗精神病薬(clozapine、オランザピン、リスペリドン、クエチアピン)の暴露は、第1世代抗精神病薬と比較して、高齢者の脳出血発作のリスクを有意に増大させることが示唆された。
278	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	20歳前に経口避妊剤服用歴のあるBRCA遺伝子陽性の女性では、早期乳癌の発生リスク上昇が示唆された。
279	アルテプラゼ(遺伝子組換え)	ラット脳血栓症モデルにおいて、tPA投与により早期に再灌流が得られても投与されたtPAは虚血脳血管部位より脳実質内に滲出し、脳神経細胞障害に関与する可能性が示唆された。
280	人血清アルブミン	アルブミンを投与されたICU患者は、アルブミンを投与されなかったICU患者に比べて死亡率が高いことが示唆された。
281	エポエチン α (遺伝子組換え)	エリスロポエチン投与が低出生体重児における未熟児網膜症の発症因子となっている可能性が示唆された。
282	フィルグラスチム(遺伝子組換え)	同種移植を行った患者440名をレトロスペクティブに調査したところ、同種移植後のG-CSF投与は肝中心静脈閉塞症と死亡のリスクを高める事が示唆された。
283	フィルグラスチム(遺伝子組換え)	末梢血造血幹細胞動員および採取のためにG-CSFを投与された健常ドナー1287名の長期フォローアップで、3名に結腸癌、肺ガン、左眼脈絡膜のメラノーマが発現した。
284	ジスルフィラム	スウェーデン有害薬剤反応審査委員会(SADRAC)が1966年から2002年に受理した肝有害反応症例報告について調査した結果、ジスルフィラムが関連した劇症肝不全症例(死亡症例3例、肝移植適用症例4例)が認められた。
285	アセトアミノフェン	ワルファリン長期投与患者に相互作用の可能性のある薬剤が併用され、特発性出血による死亡例が7例認められた。この報告のなかで、相互作用の可能性のある薬剤にアセトアミノフェンが含まれていた。
286	塩酸ラニチジン	プロトンポンプ阻害薬、H2阻害薬による慢性的酸抑制療法が股関節破損(骨折)のリスク増加に関連した。

	一般名	報告の概要
287	デキサメタゾン	デキサメタゾンを含む化学療法による腎不全、好中球減少、敗血症、肺出血及び死亡が報告された。
288	テガフル・ウラシル	間質性肺炎合併症肺癌症例の治療成績を検討した結果、治療関連の急性増悪は、発生率10.5%(9例)、致死率8.2%(7例)であったと記載されており、その治療薬の一つとして、ユーエフティが含まれていた。
289	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者に対する臨床試験において、FOLFIRI5-フルオロウラシル・ホリナート・イリリネカンとの関連性を否定できない死亡例(肺炎、好中球減少性敗血症)が報告された。
290	メトトレキサート	メトトレキサートを使用した臨床試験において、本剤との関連性が完全には否定できない死亡例(敗血症、肺出血、不明)および発癌症例(MDS、AML)が報告された。
291	トラフェルミン(遺伝子組換え)	腹部大動脈瘤モデルとなるラットに高濃度塩基性線維芽細胞増殖因子を投与した結果、出血死が多く認められた。
292	非ピリン系感冒剤(2)	アセトアミノフェンとデキストロプロポキシフェン配合剤の過量投与により、死亡にいたる確率が他のアセトアミノフェン、アヘン類配合剤よりも10倍高かった。
293	塩酸メチルフェニデート	国内の本剤の使用状況、依存、乱用についてのアンケート調査を医療関係者に対し実施した結果、患者自ら本剤を希望し、処方した経験があるのは45%、そのうち本剤を処方する必然性がなかった患者は80%であった。
294	ゾレドロン酸水和物	ビスホスホネート(BP)投与患者において発現した顎骨壊死(ONJ)に関して、ONJではない患者に比べてONJ発現患者ではBP投与回数・投与期間が多く、BP投与期間が長いほどONJ発現率が高かった。
295	アスピリン	心筋梗塞の2次的予防のためアスピリンを服用している患者において、イブプロフェンを併用することにより心筋梗塞再発のリスクが上昇することが示唆された。
296	血液検査用グルコースキット	血液を採取するにあたり、フッ化ナトリウム入り真空採血管を使用するとき、採血量が表示の規定量より少ない場合に本品との特異的な相互作用により、測定値に正誤差を与える事が認められた。
297	イブプロフェン	心筋梗塞の2次的予防のためアスピリンを服用している患者において、イブプロフェンを併用することにより心筋梗塞再発のリスクが上昇することが示唆された。
298	オキサリプラチン	FOLFOXレジメンと低用量ワルファリンを併用した患者ではINR上昇および出血の発生率が有意に高いことが確認され、特にオキサリプラチン用量の低い患者ではINR上昇の発生率が低かったことから、オキサリプラチン用量とINR上昇に関連がある可能性が示唆された。
299	酒石酸メプロロール	入院初期におけるメプロロール使用により、心原性ショックのリスクが上昇した。
300	アジスロマイシン水和物	アジスロマイシンとの併用時にトロンビン阻害薬キシメラガトランのAUCが増加した
301	ジクロフェナクナトリウム	初回心臓発作後の高用量COX-2選択的阻害剤又はNSAIDs(アスピリン除く)の服用者において、全要因による死亡リスクの上昇が示唆された。
302	ワルファリンカリウム	warfarinをaprepitantと併用することにより、S(-)warfarinのトラフ濃度が低下することが示唆された。
303	アテノロール	オレンジジュースとアテノロールの併用により、アテノロールの消化管吸収が阻害された結果、Cmax、AUCが低下した。
304	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	初回再発のCD33陽性急性骨髄性白血病患者におけるゲムツズマブ・オゾガマイシン(マイロターグ)の有効性と安全性の治験(3つの非盲検、単一治療群の第II相試験)においてゲムツズマブ・オゾガマイシン投与28日以内に44名の患者が死亡した。

	一般名	報告の概要
305	アモキシシリン	複雑性皮膚・皮膚構造感染症患者にペパシリン-タゾバクタム静注後アモキシシリン-クラバン酸経口投与後、重篤な心肺停止、うっ血性心不全増悪、アレルギー反応、無力症、発疹の悪化、右足膿瘍の持続、血性下痢、骨髄炎、clinical failureが発現した。
306	塩酸ダウノルビシン	ダウノルビシン+シタラビンとダウノルビシン+PSC-833との比較試験において、有害事象(錯感覚、失調、浮動性めまい、ビリルビン血症、感染(重篤)、小脳毒性、末梢性ニューロパシー、発熱性好中球減少症(重篤)、敗血症(重篤)、血小板減少症(重篤)、呼吸困難(重篤))が認められた。
307	アンブレナビル	プロテアーゼ阻害剤のブタの冠動脈における血管運動性、内皮細胞、NO合成、酵素発現、酸化ストレスについて検討した結果、心血管障害の原因となる可能性が示唆された。
308	酒石酸メプロロロール	入院初期におけるメプロロロール使用により、心原性ショックのリスクが上昇した。
309	カルバマゼピン	glutathion S-transferase(GST)の遺伝子多型(GSTM1*0)がカルバマゼピンの肝障害に関与していること、さらにGSTM1*0、GSTT1*0を併せ持つと肝障害の危険性が増すことが示唆された。
310	アルテプララーゼ(遺伝子組換え)	外因性のtissue plasminogen activator(tPA)が脳血管から滲出することにより脳神経細胞が障害される可能性が示唆された。
311	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド	ジフテリア破傷風混合ワクチン、経口ポリオワクチン及び風しんワクチン接種後に発症した横断性脊髄炎が報告された。
312	クエン酸タモキシフェン	初期乳癌患者に対するタモキシフェン投与群とタモキシフェンからアナストロゾールに切り替えた群において効果・安全性の比較を行った臨床試験において、副作用として二次的癌の発生、および副作用発生頻度の変化が認められた。
313	オランザピン	定型もしくは非定型抗精神病薬で治療している認知症を有する介護施設の高齢者において、脳血管疾患のリスク上昇が認められなかった。
314	スルピリド	2型糖尿病患者において、スルピリド使用により、HbA1c、BMI、プロラクチンが上昇した。
315	ホリナートカルシウム	結腸直腸癌の術後化学療法(5-fluorouracil(5FU)/folinic acid(FA)および5-fluorouracil/folinic acid/levamisol(LEV)併用療法)において、毒性による死亡が5FU/FA群で5名、5FU/LEV/FA群で3名が報告された。
316	塩酸テルビナフィン	抗真菌薬テルビナフィンおよびイトラコナゾールはセロトニン選択的再取り込み阻害薬パロキセチンの薬物動態が有意に上昇した。
317	塩酸パロキセチン水和物	パロキセチンとホスアンブレナビル、リナビル併用時に、パロキセチンの血漿中濃度が低下した。
318	ランソプラゾール・アモキシシリン・クラリスロマイシン	安定冠動脈心疾患患者におけるクラリスロマイシン短期療法を評価するための多施設共同無作為割付けプラセボ対照二重盲検試験において、約3年間の追跡調査の結果、「安定冠動脈心疾患患者におけるクラリスロマイシン短期療法は、心血管疾患による死亡率を有意に高める可能性がある」ことが報告された。
319	エストリオール	女性ホルモンは肺がんリスクの上昇に寄与している可能性が示唆された。
320	乾燥細胞培養痘そうワクチン	天然痘ワクチン(Dryvax)接種に関連した神経学的有害事象(重篤な脳炎、髄膜炎、ベル麻痺、てんかん、ギラン・バレー症候群などが報告された。
321	レボチロキシシンナトリウム	レボチロキシシンとシクロスポリンの併用により、シクロスポリンの血中濃度が低くなる傾向が認められた。
322	乾燥細胞培養痘そうワクチン	天然痘ワクチン(Dryvax)接種に関連した有害事象(重篤な心筋炎、心膜炎、虚血性心疾患、全身性ワクシニア、脳炎など);米国保健社会福祉省に受理された有害事象報告に関する記述的研究が報告された。

	一般名	報告の概要
323	ジゴキシン	ジゴキシン投与後に血小板減少が認められた。
324	フェノバルビタールナトリウム	超低出生体重児の重症脳室内出血と周産期因子について疫学的に検討した結果、フェノバルビタール投与と脳室内出血に相関が認められた。
325	フェルモキシデス	本研究でのフェリデックスによる副作用発現率(16.8%)が、治験時(5%)、使用成績調査(3.2%)より高頻度であった。
326	ケトプロフェン	COX-2阻害剤のみならず非選択的NSAIDsも急性心筋梗塞のリスク増大をもたらす可能性が示唆された。
327	ケトプロフェン	COX-2阻害剤のみならず非選択的NSAIDsも急性心筋梗塞のリスク増大をもたらす可能性が示唆された。
328	ジクロフェナクナトリウム	ラットを用いた動物実験で、ジクロフェナクとタクロリムス併用により腎障害が増強することが認められた。
329	テガフル・ウラシル	テガフル/ウラシルと塩酸ドキシソルピシンによる併用化学療法の前臨床第二相試験において、Grade4以上の血液学的毒性あるいはGrade3以上の非血液毒性が4例に認められた(4例のうちの1例の有害事象名は吐血)。
330	リバビリン	リバビリンはヒトにおける可逆性の遺伝毒性作用を有することが示唆された。
331	イトラコナゾール	CYP3A4代謝阻害のあるイトラコナゾールが、パロキセチンの血中濃度を増加させることが示唆された。
332	イトラコナゾール	CYP3A4代謝阻害のあるイトラコナゾールが、リスペリドンと9-ヒドロキシリスペリドンの血中濃度を増加させることが示唆された。
333	リファンピシン	リファンピシンと免疫抑制剤ミコフェノール酸の併用によりミコフェノール酸の血中濃度が減少されることが示唆された。
334	アスピリン	出生前の本剤使用と妊婦及び発育中の胎児への影響に関して、既存の実験動物およびヒトのデータをまとめた結果、妊婦及び新生児の出血異常が認められた。
335	アスピリン	アスピリン投与により、胎児における出血合併症等のリスクが上昇する。
336	アスピリン	フェニトインとアスピリンを併用することにより、非結合型フェニトイン濃度が上昇することから、フェニトイン中毒症状が発現する可能性が示唆された。
337	リン酸オセルタミビル	8例のベトナム人のA/H5N1インフルエンザウイルス感染症患者においてタミフルを投与した2例で耐性ウイルスが出現し死亡した。特に、発症後48時間以内にタミフルを投与した症例で耐性ウイルスが出現し死亡した。A/H5N1インフルエンザでは承認された投与量、投与期間では耐性ウイルスが出現するのかもしれない
338	リン酸オセルタミビル	・リン酸オセルタミビルとプロベネシド併用によりリン酸オセルタミビルの血中濃度が高くなり、半分のリン酸オセルタミビル投与量でインフルエンザが治療できる可能性が示唆された。 ・リン酸オセルタミビルの腎排泄における薬物相互作用は非常に弱い、プロベネシドにより腎排泄が高度に阻害され、AUCが約2.5倍高くなる。
339	イトラコナゾール	CYP3A4代謝阻害のあるイトラコナゾールが、リスペリドンと9-ヒドロキシリスペリドンの血中濃度を増加させることが示唆された。
340	アスピリン	アスピリン投与により、縦隔炎の発現リスクが増加する。
341	アスピリン	低用量アスピリン投与で流産率が増加する。
342	アスピリン	ラットを用いた動物実験で、アスピリン投与による催奇形性が認められた。

	一般名	報告の概要
343	塩酸プレオマイシン	8サイクルの用量増量BEACOPP治療(プレオマイシン、エトポシド、ドキソルビシン、シクロフォスファミド、ビンクリスチン、プロカバジン、プレドニゾン)を行った女性の51.4%に無月経が認められた。特に高ステージのHL女性患者、治療を受けた30歳以上の女性、および治療中避妊薬を服用しなかった女性で無月経が顕著に認められた。
344	カベルゴリン	カベルゴリンとグレープフルーツジュースの併用により、カベルゴリンの血漿中濃度の上昇が認められた。
345	マレイン酸チモロール	チモロール投与例において、重篤な徐脈(7件)、重症な疲労(5件)、喘鳴・息切れ(4件)、失神(2件)、間欠性跛行(1件)、インポテンツ(1件)が認められた。
346	イブプロフェン	NSAIDs長期使用は、心血管系疾患による死亡リスクの増加が認められた。
347	インドメタシン	NSAIDs長期使用は、心血管系疾患による死亡リスクの増加が認められた。
348	ジクロフェナクナトリウム	股関節、膝関節の変形性関節症患者において、180日を越えるジクロフェナク使用者は30日以上短期使用者と比較して、X線所見での症状が進行しており、ジクロフェナクが症状進行を加速する可能性が示唆された。
349	ジクロフェナクナトリウム	初回心臓発作後の高用量COX-2選択的阻害剤又はNSAIDs(アスピリン除く)の服用者において、主要因による死亡リスクの上昇が示唆された。
350	カペシタビン	カペシタビンによる低カリウム血症の発現率は高い傾向にある。
351	アスピリン・ダイアルミネート	体外受精/受精卵移植患者への低用量アスピリン投与は流産リスクを高める。
352	化粧品	本成分による接触性皮膚炎の1例で、トプチルメキシベンゾイルメタンにパッチテスト陽性であった。
353	ピレスロイド系殺虫剤	ピレスロイド系殺虫剤の成分であるメフルリンは、薬物代謝酵素誘導に関連するラット特異的な発がん作用があることが示唆された。
354	コウジ酸	ラットを用いた検討の結果、コウジ酸は肝イニシエーション作用、8-オキソデオキシングアノシン形成能を有さないが、肝腫瘍プロモート作用を有することが示唆された。
355	染毛剤	染毛剤の成分、パラアミノフェノールによる接触蕁麻疹症候群の1例。
356	ディート	ラットにおいて、Malathion、DEET、Permethrinの単独投与または併用投与においては明白な神経毒症状を引き起こさないが、有意に神経行動学的欠損と脳内神経変性の誘発が示唆された。
357	ディート	ストレスとディート等により、脳血液脳関門の崩壊や、大脳皮質帯状束、歯状回、視床、視床下部の神経細胞の死滅を引き起こすことが報告された。
358	薬用歯みがき類	グルコン酸クロルヘキシジン、グリチルリチン酸モノアンモニウム含有医薬部外品洗口液使用後に痙攣が1例報告された。